

深く読み解く力を
いかに習得させるか
が課題。

基礎・基本の
繰り返しを
おろそかにしない
態度の育成。

特集

4つの実践に見る らの「高1指導」考

生徒の
経済面への配慮が
極めて困難である。

具体的に観点を
意識した定期考査、
授業のあり方を
構築し直す
仕組みが必要。

生徒への補完的な指導
は今後も必須であり、
外部のサポートも活用し
ながら進めていきたいと
考えている。

授業の進度が
遅れがちに
なったこと。

* 上記の声は、2018年度の高1指導方針・方法・計画を変更したことによって新たに見えてきた課題を、『VIEW21』高校版読者モニターにアンケートで聞いた結果（アンケートは、2019年2月にウェブとファクスで実施。回答数は104）を基に作成。

「大学入学共通テスト」(以下、共通テスト)の実施初学年である、2018 年度高校1年生が入学して1年が経つ。共通テストにおける思考力・判断力・表現力を評価するための記述式問題、共通テストの枠組みにおいて活用される民間の英語の資格・検定試験、そして、多様な方法で多面的・総合的に評価する入試と、大学入試の仕組みや内容が大きく変わろうとしていることを受けて、各校とも、これまでにはなかった教育活動や指導を試行錯誤しながら進めてきたことだろう。

では、この1年間を振り返ることで見えてくる、これからの高1指導において大切な視点や考え方とは、どのようなものなのか。今回の特集では、これまでの高1指導から大きく方針や方法を変えた4校の実践を取り上げ、各校に共通する指導の視点や考え方を見いだしていく。

課題整理

これからの高1生が直面する
高校教育と大学入試の変化とは？ P.4

4つの実践

青森県立青森高校 P.6
東京都・私立郁文館夢学園 いくぶんかんゆめがくえん P.10
兵庫県立相生高校 あいおい P.14
大分県立杵築高校 きつき P.18

座談会

資質・能力の育成に向けた
マインドセットをつくり、
学年・学校全体で共有する P.22

学年間の引き継ぎ、
担当者間の引き継ぎ、
結果分析の蓄積
が必要。

教師・生徒とも
ポートフォリオの本質
をもっと理解すべき。

これが

ターゲットを何にするか。
これまでは
センター試験だったが、
今後、より多様な目標を
掲げる必要があるか？

アクティブ・ラーニング
のさらなる拡大。